

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	16-121	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Divorce and the Onset of Alcohol Use Disorder: A Swedish Population-Based Longitudinal Cohort and Co-Relative Study. 離婚と飲酒関連障害の関連：スウェーデンにおける前向きコホート研究		
執筆者		
Kendler KS, Lönn SL, Salvatore J, Sundquist J, Sundquist K.		
掲載誌		
Am J Psychiatry. 2017 May 1;174(5):451-458. doi: 10.1176/appi.ajp.2016.16050589.		
キーワード		PMID
飲酒関連障害、離婚、再婚、コホート研究		28103713
要 旨		
目的： 研究の目的は、離婚と飲酒関連障害との関連の大きさや内容を評価することである。		
方法： スウェーデンの大規模コホートにおいて結婚している人(N=942,366)を対象とし、離婚した人または未亡人と飲酒関連障害発生（AUD）リスクとの関連を評価する。AUDは、医療、事故、薬局などの登録データベースから診断された。		
結果： 離婚することは、AUDの発生に強く関連がみられ、男性ではハザード比=5.98倍（95% CI=5.65–6.33）、女性では7.29倍（95% CI=6.72–7.91）であった。双生児間を比較した場合、離婚が発生することによるAUDのハザード比は男性3.45倍、女性3.62倍であった。結婚前にAUD発生既往がある場合、離婚はAUD再発にも関連がみられた。更に、未亡人であることもAUD発生と関連がみられ、男性では3.85倍（95% CI=2.81–5.28）、女性では4.10倍（95% CI=2.98–5.64）であった。離婚した人の中では、再婚することがAUD発生を下げる関連がみられた（ハザード比；男性0.56倍、女性0.61倍）。		
結論： 配偶者の損失はAUDリスクを高めることがわかった。更に、再婚をすることのAUDを下げる効果もみられた。以上より、結婚と問題のある飲酒行動には関連があることが示された。		